

# X68 ドライブ-ガマの大洞窟篇

和牛

---

## 「事」の始まりは1年前の会誌記事であった」

“東京アウェシュラン”という東京のデートスポットへ行き、どれだけアウェーを感じるかという無茶な企画があった。参加者はそれぞれが多大なダメージを受け、企画のトラウマによりスウィーツパラダイスに対して拒否反応を示すようになってしまった者もいた。その打ち上げで主催者である和牛はある提案をしたのだ。

「来年も似たような旅企画やろう」

—————これが事の始まりである —————

---

## X68 ドライブ概要

- 1・目的地はいわゆる“B級スポット”である「筑波山ガマの大洞窟」。
  - 2・参加者は6人。免許所有者がレンタカーを交代で運転する。
- 

## 「あれっ？ ローソンじゃないの？」

7月21日朝。大学近くのファミリーマートに参加者たちが集まった。レンタカーへ乗り込みナビに目的地を入力する。目的地は「筑波山ガマの大洞窟」。前情報によると何とも手作り感あふれるレジャー施設らしい。旅の目的地がB級スポットというこの旅、車内のテンションが上がり切らない。音ゲーのサウンドトラックが車内に響く。



## 「絶」好のドライブ日和(大雨)」

最初のドライバーは和牛(修士1年)。ナビに惑わされながらも一般道を通り、外環へ。混雑もなく走りやすい。レンタカー車内に残った謎の手紙や、音ゲーサントラ効果か、少しづつ車内に一体感を感じる。朝は吹いていなかった風が吹いてきている、確実に、着実に、俺たちのほうに。勢いに乗って守谷インターで運転手の交代を行おう。2番目のドライバーはふまくら(2年)。免許取り立てということで車内のテンションがさらに上がる。中央分離帯衝突ガチ勢として後輩を煽るえむひよこと卵野郎(3年)。先輩の鑑である。車線合流に沸く車内。茨城を抜けるレンタカー。

「茨城って田舎なんすか??」

「北部はだいぶやばい」

## 「な」んかもう興奮しすぎた」

一般道へ降りてナビに従って運転するふまくら。安定した運転でナビに従って目的地へ。しかし、ナビはかなり細い道を示しはじめた。調布を出発した時に気づけばよかったのだが、このナビ、最短距離を重視するあまりか完全に住民用の道路を通らせようとしてくる。完全に住宅街に入り込んでしまったレンタカー。7人乗りのミニバンである。

ぎりぎり曲がれる道を慎重に進んでいった時に“坂”が現れた。傾斜角30度はあろうかというアスファルト打ちっぱなしの坂。AT車でブレーキを踏まないと後ろに下がってしまうレベルの傾斜である。初心者にはあま



りにもきつい道でさらに正面から車も来ている。ギリギリすれ違える程度のスペースしかない。運転手を和牛にかわって坂を抜けたが焦りすぎて車内は大騒ぎだった。焦りすぎて誰も写真を撮る考えが浮かばない程度にあせっていたのだ。—————だから写真がないのだ。

## 「ガマの洞窟 そんなものはなかった…？」

筑波山までもう少し、山道を進んでいく。走り屋の残したタイヤ跡がひどい。12時を少し過ぎたとき、ゴールが見えてきた。



山肌がペンキで黄色く塗られている。なんかすごいデカイカエルがいる。そして車はあるのに施設内がやたら閑散としている。完全にやばい空気が漂っている。完全に期待通りのB級スポットである。

「筑波山ガマの大洞窟」は食堂と売店・プレイランド・洞窟と3つの区画に分かれている。食堂に向かう前にプレイランドへ向かった。



プレイランドには多くの乗り物が置いてあった。しかし、どれも錆びついていたり壊れている。長い間整備をされていないのを見て取れる。まさにB級スポットの鑑というべき光景である。

おもむろにふまくらとえむひよこと卵野郎がパトカーに乗って100円を入れた。明らかに手入れしてないであろうパトカーは軽快な音楽とともに左右に揺れ始めた。いい年の大学生二人を乗せて動くパトカー。ボタンを押せばサイレンが鳴る。すごいぞパトカー。やったぞパトカー。3分程度は動いていたんじゃないだろうか。プレイランドでもうおなかいっぱいである。



食堂は“古いレジャー施設によくあるようなコシが全くないうどん”が出てくるような懐かしい食堂だった。懐かしさを感じさせる味に皆大満足だった。その後、腹ごなしをしてガマの洞窟へ向かった。

本来ならここでガマの大洞窟の紹介を行うのだが、参加者全員が写真を撮り忘れるほどの衝撃的な施設だったので是非自分の目で確認してほしいと思う。いった後だからこそ言えるのだが、あの異様な空気を文字に起こすのは不可能だ。

「い」ま思ったら一撃で全員の氣力を削ぎ、

焼肉に連れていくガマの洞窟は優秀なのではないか」

結局参加者の氣力はガマの洞窟で切れてしまった。予定では栃の木ファミリーランドなるB級スポットにも向かうはずだったのだが筑波山山頂まで登って帰ることにした。皆にこれ以上B級スポットの魔力にあらがうだけの氣力は残っていない。筑波山の山頂から見える景色は、なくなってしまった氣力と無駄にした時間を取り戻させてくれる気がした。遠くに見える空はどこか手が届きそうな気がした。やはり人間という生き物は空に



あこがれてしまうのだろう。羽ばたく鳥になりたいと願った日から長い時間をかけて人類は空を飛ぶすべを手に入れたのだ。あきらめなければ夢はかなう。そんなシンプル

なことにたどり着くまでに僕たちはなんて遠回りをしてしまったんだ。帰ろう。調布へ。調布焼肉センターへ帰ろう。肉を食べよう。

おいしいお肉で打ち上げだ。

---

参加者

X68 ドライブ制作委員会

主犯：和牛

えむひよ 凝塊 西脇恭介 ふまくら はがね

Special Thanks：ボクもワタシもオラウータン はにゅう (^J^)

# 付録～旅の記憶～

